

## 地域住民における Body Mass Index と 高血圧，糖尿病，高コレステロール血症発症 に関する追跡研究

ヤマギシ 山岸	カズマサ 良匡*	ホノダ 細田	タカコ 孝子 <sup>2*</sup>	サイレンチトシミ 西連地利己 <sup>*,3*</sup>	モリ 森	カズイ 和以 <sup>4*</sup>
トミタ 富田	ヒロシ 拓 <sup>5*</sup>	ニシムラ 西村	アキオ 秋生 <sup>6*</sup>	タニカワ 谷川	タケシ 武*	イソ 磯
				ヒロヤス 博康*		

**目的** 地域住民健常者において，body mass index (BMI) 区分とその後の高血圧，糖尿病，高コレステロール血症発症との関連を明らかにする。

**方法** 茨城県内における基本健康診査受診者で，高血圧，糖尿病，高コレステロール血症の既往のない40～69歳の男女1,427人を平均4.3年間（平成5年～12年）追跡し，BMI とその後の高血圧，糖尿病，高コレステロール血症の発症との関連を分析した。

**成績** 追跡期間中，118人が高血圧（収縮期血圧160 mmHg 以上，拡張期血圧100 mmHg 以上，高血圧治療中のいずれか）を，56人が糖尿病（空腹時血糖126 mg/dl 以上，随時血糖200 mg/dl 以上，HbA1c 6.1%以上，糖尿病治療中のいずれか），136人が高コレステロール血症（血清総コレステロール値240 mg/dl 以上（50歳代以上の女性のみ260 mg/dl 以上），又は高脂血症治療中）を発症した。性，年齢，自覚的運動不足の有無，食習慣，飲酒状況，喫煙状況および初回健診時の血圧，血糖，総コレステロール値を調整すると，高血圧，糖尿病の相対危険度はBMI (kg/m<sup>2</sup>) が27.0以上の群で21.0～22.9の群に比べいずれも有意に高く，高血圧の相対危険度（95%信頼区間）は1.9(1.0-3.6)，糖尿病については2.9(1.2-7.4)であった。しかし，これらの関係はBMI が23.0～24.9の群，25.0～26.9の群では統計学的に有意でなかった。一方，高コレステロール血症の多変量調整危険度はBMI が23.0～24.9の群で1.5(0.9-2.6)，25.0～26.9の群で1.7(0.9-3.2)，27.0以上の群で1.6(0.8-3.1)であり，いずれの関連も有意でなかった。これら三疾病を合算した分析では，多変量調整危険度はBMI が23.0～24.9の群で0.9(0.6-1.5)，25.0～26.9の群で1.2(0.7-2.1)，27.0以上の群で1.8(1.0-3.3)であった。

**結論** BMI が27.0以上の群において，高血圧，糖尿病の発症リスクが増大することが明らかとなった。このリスクの増大はBMI が27.0未満の群では統計学的に有意でなかったことから，BMI が25.0～26.9の者に対して一律に減量指導を行う必要性は，BMI が27.0以上の群に比べ少ないと判断された。

**Key words** : Body Mass Index, 高血圧, 糖尿病, 高コレステロール血症, 生活習慣病, 追跡研究

\* 筑波大学社会医学系社会健康医学

<sup>2\*</sup> 茨城県健康科学センター調査研究部

<sup>3\*</sup> 財団法人茨城県総合健診協会

<sup>4\*</sup> 茨城県水戸保健所

<sup>5\*</sup> 国立武蔵野学院

<sup>6\*</sup> 国立保健医療科学院

連絡先：〒305-8575 つくば市天王台1-1-1

筑波大学社会医学系社会健康医学 磯 博康